

# H27 年度 アドバイザー派遣研修実施レポート

少人数学習指導研究会

## 1 研修テーマ

### 各校の教育課題に根ざした「少人数・複式学級の学習指導の研究と実践」

本研究会は本年度の活動方針に「少人数・複式学級の学習指導の研究と実践及び新教育課程に基づく教育実践とその工夫・改善につとめる」を掲げ、取り組んでいる。本年度、会見第二小学校は特に先導教科を設けず多様な教科で、また、日光小学校と二部小学校は国語科を先導教科として、児童相互の関わりを深める学習指導のあり方、個に応じた指導、言語活動の充実等をめざして研究・実践を行っている。本研究会では、少人数・複式学級の指導方法の研究を重ねつつ、会員相互の指導力向上を図っている。

## 2 アドバイザー

### 岡山大学教師教育開発センター 高旗 浩志 教授

岡山大学教師教育開発センターの高旗浩志教授は、協同学習を軸とした組織的授業改善の研究に熱心に取り組まれている。少人数や複式学級での児童生徒の学び合いを軸とした学習活動や、少人数学習における言語活動の充実をめざした学習指導についてぜひご指導を賜りたいと考えた。授業実践を中心とした研究でのアドバイザーとして指導をして頂くことで、少人数・複式学級での学習指導における課題解決への十分な効果が上がり、教師の指導力が確実に向上するものと考えた。

## 3 研修の概要

日時	平成27年10月20日(火)	13:00～16:50
場所	南部町立会見第二小学校	
日程	13:00～13:50	理論研究、指導助言(高旗先生)
	14:00～14:45	公開授業 6年生社会科「世界に歩みだした日本」
	14:55～16:50	授業研究会 研究協議(グループ協議と全体会) 指導助言(高旗先生) 講義 「協同学習」について(高旗先生)

## 4 研修内容

公開授業は、会見第二小学校の研究主題『豊かにつながり、高め合う児童の育成～少人数のよさを活かした、関わり合う学習を通して～』に基づき、6年生3人という極少人数の学習で、いかに児童相互の関わり合いを持たせながら展開するかを工夫した提案授業を行った。その後の授業研究会では、2グループに分かれて、児童の活動の様子や

教師の支援について振り返りの協議を行った。さらに高旗先生より、指導助言と協同学習についての講義を受けた。授業改善についてのアドバイスを、たくさん頂くことができた。

#### ○指導助言より

指導案をしっかりと練った上での授業研であった。授業の提案性（仮説）について皆で明らかにしてアプローチし、授業後に、提案がどのように機能したか、または機能しなかった原因は何かを検証していくことが、皆の授業改善につながっていく。指導案に中学校での指導内容との関連を明記してある点がよい。また、少人数だからこそ、一人ひとりに「どのような力をどうつけていくか」を個別に書いていくとなおよい。



児童は、本時のめあてについて前日の自主学習で予習して考えている。毎回積み重ねていくことで、次第に的を得ためあての文を自分たちで考えられるようになってきている。さらに、なぜこのめあてを考えたのか理由まで発言できている姿があった。学習のめあてを考えることは、主体的に学習に参加するために価値がある。さらに「この時間に何ができるようになればいいのか」がわかるように、具体的に表すことができるとなおよい。

また、学び時計で学習の見通しを持たせることができていたが、学習活動が多すぎて時間が足りなかった。ひとつひとつの活動につながりがあり、児童にとって学習の展開の必然性が伝わる流れにすることが、教師の役目である。そして、児童に「一生懸命考え抜く」という自力解決の時間をしっかりと確保することが重要である。

授業の展開はできるだけシンプルに、「つきたい力」をはっきりとさせて「させる内容」を精選する。教師の発言はできるだけ少なく、児童にすぐ声かけするのではなく本人のアプローチの仕方をよく見て待つ姿勢が大切である。なかなか発言できない児童に対しては、教師が手をかけすぎてサポートしすぎないようにしたい。児童相互の関わり合いの面からも、子ども自身が困っている友だちに手をさしのべる、困った人もさしのべられた手に素直に反応する。みんなでよくなる、みんなで高まるという学習をしていく。それが協同学習の理念である。